

平成28年度 学校自己評価、第三者及び学校関係者評価シート

<b>目指す学校像</b>	建学の精神「選択」「専修」を踏まえ、 1. 自己肯定感を育み、他者を認めることができる人間を育てる。 2. 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3. 夢を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。
---------------	--

<b>重点目標</b>	1. 入学者の定数確保と埼玉工業大学への内部進学者の増加 2. 教育指導力の充実と向上 3. 浄土宗門関係学校としての教育推進 4. 危機管理体制の充実と再構築
-------------	---

<b>達成度</b>	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

<b>出席者</b>	第三者委員 2名(委員数 3名) 学校関係者 11名(委員数11名) 教職員 6名(委員数15名)
------------	---

学校自己評価				第三者及び学校関係者評価				
年度目標				実施日 平成29年3月25日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	第三者及び学校関係者からの意見・要望・評価等
	・本校の位置する県北部地区の中学校の生徒数は減少傾向にある。定員の安定した確保のため、さらに特色化を進め他校との違いを鮮明に打ち出すことが課題である。  ・親大学である埼玉工業大学は、工学部、人間社会学部とも充実した施設・研究が行われ、また計画的な広報により、志願者数は安定している。本校からの進学者をさらに増加させることが課題である。安定のために本校からの大学への内部進学者をさらに増加させることが重要な課題となっている。	・歴史と伝統の延長線上に描いた本校の未来像が、世間からどのように評価され、本校の価値観が客観性を持って受け入れられているか確認する。  ・入学者は360名(学則定員の90%)以上を維持し、内部進学者数は45名(埼玉工業大学入学定員の9%)以上、かつ文系学科入学者数の増加を目指す。	・近隣の公立高校及び競合する私立高校とは異なる特徴ある教育実践をすることにより、中堅進学校としての地位を確立させる。 ・利害関係者だけでなく中学生やその保護者にも有意義な情報を積極的に発信し続ける。 ・高大連携委員会の提言を実現させるために「埼玉工業大学と正智深谷高校との高大連携実施委員会」が積極的に活動する。 ・効果的で充実した情報発信を行う。(チームEvents、Media)	・補習や受験サプリアの実施により、本校の教育で受験対応体制を整えているか。 ・私学として建学の精神を人間形成の柱とした教育カリキュラムを編成して実施しているか。 ・ホームページにより、最新かつ興味を惹く情報の提供を継続して行っているか。 ・新1年生予定者385名、埼玉工業大学への内部進学者が45名を越えたか。 ・高校教育改革に対応できる特色化が具体的に進んでいるか。	・校長の掲げた経営方針SHIPの実現に向けて10チームによる学校改革に取り組んだ。その取り組みの一つである平成30年度入学生のカリキュラムの改訂、それに伴う日課表の変更など、近隣の公立高校・私立高校とは異なる特色化を図った。 ・入試広報室のリーダーシップの下、地道に募集活動を重ねた結果、入学予定者は目標の385名を大幅に上回る477名であった。 ・トップページの変更、校長コラムの追加そしてほぼ毎日更新した結果、ホームページのアクセス数は昨年度に比べ大幅に増加した。	B	・埼玉工業大学への内部進学者が目標値に届かなかった。具体的な方策を高校側からも大学へ提示するなど、より強い連携が必要である。 ・校長の経営方針SHIPをより広く・深く浸透させ、他校との差別化をさらに進めていく。 ・ICT教育の環境が整った。教員の共通理解を築き、タブレット端末による授業の取り組み・充実を図る。 ・入学者数が大幅に増加した理由(ホームページ、ブログの更新等)を分析して、来年度の募集に活かす。	・生徒・保護者アンケートで「正智深谷高校で良かった。」という声が多くなった。さらに「一人一人の生徒の将来を見据えた教育をしている。」という評判が広がれば、生徒募集も効果的になるのではないか。 ・東京周辺の大学は数多くあり、生徒数減少により争奪戦が予想される。本校には埼玉工業大学を親大学にもつ「高大連携実施委員会」の活動の活性化に大いに期待する。今後の双方の動きに期待する。 ・サッカーの全国大会での活躍、東大に現役合格など嬉しいことが続いている。しかし、本校の教育理念を忘れず、受験予備校化だけは避けていただきたい。一方親大学である埼玉工業大学への合格者数が減少傾向にある。一人でも多くの生徒が、埼玉工業大学に進学して欲しい。ひいては、同大学に進学する目的で本校を受験するという生徒が増えて欲しい。
2	・本校は、特別進学系・総合進学系・スポーツ系の3つの系統を持ち、生徒の適性や能力に応じた指導を行っている。さらなる発展のために、現在進行中の高校教育改革に対応できる教育課程の編成や指導力の向上を図ることが課題である。  ・生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、学力の定着を図ることが重要である。その実現のために入学時からの系統的な指導の改善・向上を図ることが課題である。	・社会の進展に対応した教育内容を実現できているかどうか確認する。  ・国公立大学への進学実績30名以上が達成されたか。  ・4年制大学への現役合格率が80%台を守っているか。	・担任と教科担任が更に連携することにより指導力の向上を図る。 ・成績不振者への支援対策を充実させる。 ・校内研修を充実させる。(チームPBL) ・本校のグローバル教育を進める。(チームGlobal) ・教育環境の充実を図る。(チームBack Up、Library、Dining) ・新試験制度等に対応できる準備(校内改革)が順調に行われているか。	・適切に課す宿題などで生徒の自主的な学習姿勢の育成を図る。家庭学習時間の増加が図られているか。 ・「分かりやすい授業」と「基礎学力の定着」を図るための教育が成されているか。 ・コミュニケーション能力を育成するための指導が適切に行われているか。 ・PBL(アクティブラーニング)研修の成果を授業に還元できたか。 ・新試験制度等に対応できる準備(校内改革)が順調に行われているか。	・受験対応の体制を整えたことにより東京大学、埼玉大学、早稲田大学、上智大学をはじめ多くの難関大学に合格者を出した。 ・20名を越える生徒が参加した海外研修では、ニュージーランドの文化や本物の英語に触れることができたことなど、多くの貴重な体験をすることができた。 ・男女バスケットボール部、女子卓球部、男子バレーボール部、サッカー部及び将棋部が全国大会に出場して活躍した。また、9つの運動部が関東大会に出場した。	A	・来年度は3年生の生徒数が大幅に減少する。国公立大学の合格者数及びGMARCHの合格者数が現状を保てるまたはそれ以上になるように、質の高い進学指導が期待される。 ・PBL研修も順調に行うことができた。PBL以外のアクティブラーニングの研究にも取り組むなど、さらに研修を深める。 ・来年度は海外研修3年目になる。さらに本校のグローバル教育を発展させるためには、姉妹校の提携など新たな企画が求められる。	・生徒が成績が振るわなかったときの学習指導体制については生徒・保護者・教員から高い評価を得ている。生徒は安定して勉強に励んでいるとは言えない。そこを見逃さずに指導していただきたい。 ・3つの系統を持つ本校の「文武両道」の理念は素晴らしいものがある。 ・学習指導における保護者の評価は総じて好評であるが、生徒のそれはそれ程でもない。どこに不満があるのか、どうして欲しいのか分析していただきたい。 ・部活動と学習面との両立についての不安感が覗かれる。適切な対応を期待する。
3	・浄土宗門の学校としての特色を最大限に生かし、仏教を通じての日本古来の伝統を踏まえた教育の実践に保護者からも確かな支持を得られている。 ・生徒指導体制は確立されており、生徒指導上の問題は少ない。生徒は校則を遵守し規則正しい生活をおくっており、学習・部活動・学校行事に意欲的に取り組んでいる。自己肯定感を育むことと同時に自ら考え、自ら行動できる能力を育成することが課題である。	・日本人としての基礎教養の力を建学の精神浸透とともに茶道や華道等を通じて学ばせ、人格の形成を図っている。 ・社会科の学習においては時代ごとに宗教が果たした役割を理解させながら歴史について学ぶ。	・校訓である「選択」と「専修」の人間形成が実現できているか、更に一人一人の適性に合った人間形成が行なわれているかに着目する。 ・日本人が知っておく習慣や伝統行事について、基本的な知識を身につけられたか日々検証していく。 ・SHIP委員会(宗教教育)を中心に授業、行事を含めた内容を検討する。	・宗教行事(精霊会など)を学校行事に組み込み体験させ、一般化した仏教用語や仏教起源の習慣を学んで宗教(仏教)が日本文化形成への係わりと果たした役割を理解しているか。 ・カリキュラムに浄土宗などの宗教教育を取り入れ、尊ぶべきものや守るべきものを学んで尊厳を持って生きることが学べる。 ・浄土宗宗門校の特色を生かした取り組みで、PTA、地域との連携を深めることができたか。(チーム Friendship)	・計画した宗教行事は全て順調に行われた。特に1学年の飯綱研修、3学年の増上寺研修は、日本の伝統文化を学ぶとともに、人格形成においても十分役立った。 ・校訓の「選択」「専修」の生き方及び自己管理能力を育む教育の充実が図られた。	A	・来年度は宗門校担当校として宗教情操教育研修会を本校で開催する。今までの研究の成果を十分発揮できるよう適切な企画・運営が行われるよう早くから準備に取り組む。 ・新教育課程に「正智の時間」を組み込むことはできなかったが、現行の課題を精査して、充実した取り組みができるようにすることが急務である。	・仏教の教えを知ることにより、日本人の「誠実さ」「勤勉さ」「尊さ」を世界に紹介している。大きな人間に育つよう浄土宗教育は子供達の将来に必ず役立つものであると思う。 ・多感な時期とは、大いなる可能性を秘めた時期でもある。これからの人間形成において非常に重要な時期である。この時期を過ごすにあたり、他校では出来ない情操教育を期待する。 ・教育理念の基礎に仏教精神に基づく教育目標を置くことは生徒の自己実現にとって有益なものと思われる。生徒の長いこれからの人生において、必ずや価値を見出す時がくる。
4	・学校は安全な場所であればならない。どのようなリスクに対しても適切な対応ができるよう体制を整えている。  ・いじめの根絶や不登校への対応は適切な指導が行われており、効果が見られる。事件・事故を未然に防ぐため分掌間の連携や外部機関との連携を強化することが必要であり現在進めている。	・健康と安全に関する対応やカウンセリングなどの支援体制を充実させて活用する。  ・学校事故への対応並びに自然災害発生に備えた訓練などの防災体制確立を着実に推し進める。	・常に生徒の状況に注意するとともに教職員間の情報共有と連携により協力体制を整える。 ・緊急時の対応マニュアルを作成して訓練を実施する。 ・警察や消防と連携するとともに、AEDの利用に関しては生徒も扱えるように練習する。 ・校内環境美化を推進し、災害時における障害物を撤去する。(チーム Cleaning)	・安全点検は適切に行われているか。また、危機管理意識の向上が図られているか。 ・正智ウェブの活用が適切に行われたか。 ・校内防災マニュアルの作成(改訂)及び防災訓練が行われたか。 ・自然災害等における緊急対応ができたか。 ・社会情勢に合わせた指導ができたか。(チーム Social Relationship)	・カウンセラー(臨床心理士)、養護教諭及び該当クラスの担任等との強い連携のもとで支援体制を整えている。そのため対応も早い。 ・校内防災マニュアルを改訂した。災害時における生徒の安全を確保する体制がさらに整った。 ・改訂に併せて防災訓練を行った。 ・SNSに係るトラブルに巻き込まれないように外部指導者を招き生徒対象の講演会を行った。とても好評であった。	B	・生徒たちを取り巻く社会の環境は大きく変わり、しかも複雑化の傾向にある。教職員がさらに連携を深め、情報を共有化し、いじめや非行の撲滅、精神的な悩みの解決に努めていく。 ・竜巻・突風時における対応も見直しする。 ・ネットトラブルに係る講演会を新入生・保護者を対象に早い時期に実施する。 ・生徒一人一人が「高校生活を有意義に過ごすためには、何をやらなければならないのか。」を考えられるよう指導していく。	・チャイリー一部、吹奏楽部が地元自治会行事に参加してくれることに感謝する。地元の人達との色々な場面での交流は生徒の将来にとっても大事なことでありと考える。 ・広い意味での「防災」は精神的ソフト面と災害・避難・安全などのハード面は、近隣自治体市町村と足並みを揃え、大災害に備え十二分な訓練・対策をお願いしたい。 ・校舎の耐震補強・リニューアル工事等で物的安全性は一応図られた。後は利用者の心の問題が残されている。身近に切迫した事情が無いと油断しがちである。日常、緊張感を持った安全指導をお願いしたい。